

# 絆をさらに！

## 「第 34 回 日本語スピーチ発表会」を開催

主催  一般社団法人 日本在外企業協会

共催



日本アセアンセンター

後援



協力

早稲田大学  
国際学生友好会



第 34 回日本語スピーチ発表会(主催＝日外協、共催＝日本アセアンセンター、後援＝国際交流基金、協力＝早稲田大学 国際学生友好会)を 10 月 10 日(木)、アセアンホール(日本アセアンセンター)で開催。ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの ASEAN10 カ国から各国の日本語スピーチ・コンテストで選ばれた 10 人の代表がスピーチを披露した。



ASEAN10 カ国を代表する発表者の皆さんと発表会実行関係者および各国大使館関係者

## 交流のさらなる広がり期待

日本語スピーチ発表会は、日外協が1986年から毎年実施している草の根国際交流「日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業」の一環として行っているもので、ASEAN各国の大使館、会員企業・団体、大学関係者、および発表者の友人ら約100人が出席した。

開会挨拶に立った日外協・川名浩一副会長(日揮ホールディングス(株)副会長)は、出席者への謝辞を述べるとともに、日本とASEANのコンネクティビティ(連結性)に言及。「一番大事なのは人と人とのつながり、日本での出会いを大切にしてほしい」「今回の来日を機に横<sup>きずな</sup>の絆を築いていこう」と呼びかけた。

発表会を共催する日本アセアンセンター・久保田有香事務総長補佐は、「毎回スピーチのレベルが上がっていて、今回も楽しみにしている」と述べた。そして、同センターの活動の柱の1つである日本とASEANとの人の交流がさらに広がっていくことに期待を寄せた。

続いて、昨年の参加者からのビデオメッセージ。「頑張れ!」「応援しています」。学生として、社会人として活躍している様子が伝わってくる。インドネシアのセリ・イナヤンティさんは、日本語教師を目指してジャカルタで教育実習中。学校の教室から元気な生徒たちと声援を送ってくれた。

## 失敗や困難は成長の機会

10人が次々と登壇し発表を行った。今回のスピーチの特徴は3点。1つ目は自国の発展に貢

献したいという思い。2つ目は環境、教育、貧困など社会課題への関心。そして、3つ目は失敗や困難を自身の成長の機会と捉え奮闘するチャレンジ精神だ(\*スピーチ要約は次ページから)。

講評に立った桜美林大学・馬越恵美子副学長は、志、夢、勇気、希望、挑戦、愛情、どのスピーチもユニークでドラマチックだったと発表者一人ひとりにこやかに語りかけ、健闘をたたえた。そして、日本の良さを分かってくれるASEANの若者と共に、多様性と和合の輪をさらに広げていきたいと述べた。



ユーモアあふれる講評(右から2人目が馬越先生)

続いて、「日本アセアンセンター事務総長賞」と「日外協会長賞」の発表。いずれも日本語の優劣ではなく、それぞれの団体の活動主旨に最も合ったスピーチを行った代表に贈られる。日本アセアンセンター事務総長賞にはミャンマーのティン・ナンダー・リンさんが、日外協会長賞にはフィリピンのゾーイ・アガサ・セラノさん。また、日外協特別賞にインドネシアのグデ・スティルタさんが選ばれた。



左から「日本アセアンセンター事務総長賞」「日外協会長賞」「日外協特別賞」を受賞した皆さん

発表会終了後の交流会では、参加者が発表者たちの健闘をたたえ励ます光景が至る所で。また、各国の大使館員ら来賓が挨拶し、発表者たちに温かい賛辞を贈り、労をねぎらった。

(スピーチ発表順に掲載 \*年齢、職業、学校名は発表会当時のもの)

## 心のふるさと

グエン・チャン・ミーさん (20歳)  
ハノイ国立外国語大学 学生 (ベトナム)

私の心のふるさと  
は父です。

15年前、私の父は  
病気で亡くなってしま  
いました。その時、私  
はたった5歳でした。  
あれからもう15年と  
いう長い歳月が経ちま  
したが、父の優しいイメ  
ージは心の中にずっと  
しまっておりま  
す。母が父との結婚写真を見  
せてくれたことがあります。  
写真の中の父は背が  
高く、やさしい笑顔をして  
いました。

父との思い出は少ないです。  
覚えているのは、  
父が私と姉を幼稚園に迎  
えに来てくれて、おも  
ちゃを買ってくれたこと  
です。つらい時、父との  
思い出を考えると、心  
の中が温かく感じてほ  
つとします。父は私に「  
ミーちゃん、あきらめ  
ないで頑張っ  
てね」と励ましてくれ  
ます。

父が亡くなってから、母  
は一所懸命働いて私  
たちを育てていま  
す。母に「父との一番  
きれいな思い出は何？」  
と聞いたことがあり  
ます。私と双子の姉が  
生まれた時、父がす  
ごく喜んで、病院に  
いる人たちみんなに  
ビールを買ったこと  
だと答えました。

父はもういないですが、  
いつも私の横にいて、  
応援してくれている  
と思います。私は母に  
幸福な生活を送らせて  
あげるため、毎日頑  
張っています。父の温  
かい声を聞くことや  
優しい笑顔を目で  
見ることはもうあり  
ません。でも、その  
結婚写真の中でき  
ちんとした洋服を  
着て、母と手をつ  
ないでいる男性の  
イメージを大事に  
心にかけておき  
ます。



## 猫年

リム・ウィー・シアンさん (32歳)  
シンガポール国立大学 卒業 (シンガポール)

初めて会ったシンガ  
ポール人の男性とこ  
んな会話をしま  
した。

「おい！ 君は何歳  
だ？」「えっ？ 急に  
……。私の干支は……  
ねこどし  
猫年です」。

「仕事は何をしてい  
る？」「私は……学生  
です」。

「猫年」という干支は  
ありません。「猫年」  
という言葉に「自分  
の目で見て判断しろ！」  
という意味を込め  
ました。こうして年  
齢のプライバシーを  
守りました。また、「  
学生」という返事  
で「職業」も守り  
ました。今は、生涯  
学習の時代なので、  
学ぶ人は何歳でも  
学生です。

シンガポール人の中  
には、プライバシーに  
踏み込むような質  
問をする人が驚く  
ほど多くいま  
す。

60年前のシンガ  
ポールでは、一般の  
大家族は貧乏で、小  
さな部屋で川の字で  
寝ていたそうです。  
時代が変わってア  
パートに住むよう  
になっても、部屋  
のドアを開けっぱ  
なしにする習慣が  
あります。家族な  
ら、秘密もない、  
悩みを1人で抱え  
込まないという考  
えです。このような  
環境で、プライバ  
シーというものが、  
そもそも存在し  
ていなかったん  
です。

でも、誰かに質  
問する時は、相手  
のプライバシーを  
尊重できているか  
どうかをよく考  
えないと、相手  
の心を深く傷つ  
けてしまうこと  
もあります。これ  
からは、初めて  
会う人、そう、  
世界中の人は皆  
「猫年」だと考  
えましょう。私  
も、そして、皆  
様も、隣の人も  
……。





## 「約束を守らないこと」にありがとう

ポーン・ウィエンボパーさん (21歳)

カンボジア王立法律大学 学生 (カンボジア)

私の父の仕事は自動車の販売です。また、レンタカーやドライバーの紹介を時々します。

2010年12月、父は田中さんという日本人のお客さんと1カ月間、車を貸す契約をしました。ドライバーは夜6時までという約束でした。しかし、毎日、田中さんは契約の時間を守らず、ドライバーは夜遅くまで働きました。父は怒って、契約を破棄しようとしていました。

ところがある日、田中さんの頑張る姿を見て、私の父の考え方は変わりました。田中さんはエンジニアで、カンボジアの病院で電気整備の仕事をしていました。多くのことを担当していてとても忙しく、車の中でもいろいろな資料を準備しながら、朝ご飯を食べています。「田中さんはカンボジアのために、頑張ってくれている」「彼に感謝しないと」。

仕事が終わって日本へ帰国するとき、田中さんはカンボジアのお正月に家族と旅行に来て私たちの家に来ると約束しました。しかし、残念なことに2011年3月11日、日本で大きな地震と津波がありました。父は田中さんと何回も連絡を取ろうとしましたが、取れませんでした。

約束を守らない人は必ずしも悪い人なわけではありません。私の家族は今もお正月になると田中さんを待っています。田中さんが、今度は約束を守って、いつかカンボジアに来てくれることを願っています。



## ミャンマーを発展させるために、私にできること

ティン・ナンダー・リンさん (23歳)

ダゴン大学 学生 (ミャンマー)

私は17歳のときに、ヤンゴンにある児童養護施設に来ました。

施設に入る前は、貧しい家の事情を考えると、高校に進学することはできないと思っていました。しか

し、ヤンゴンに来て日本語を勉強し始めたことで「ミャンマーを日本のように発展させたい!」という夢ができました。日本に留学してこの夢を1日でも早くかなえられるよう、毎日頑張っているんです。

現在、私は大学の国際関係の学部でSDGs(持続可能な開発目標)について学んでいます。世界ではSDGsの17個の目標を達成するための新しい技術が次々と生まれています。例えば、遠隔医療。病院のない地域で今まで医療を受けることができなかった人たちが、携帯電話の画面を通じて、診察を受けることができるのです。もしこれが当たり前になったら、SDGsの目標の1つ「すべての人に健康と福祉を」が実現されるでしょう。また、私は「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」にも強い関心をもっています。

教育を受けることで、「知識」「強さ」「自信」「家族の幸せ」を手にすることができました。これらが人生に目標と生きる勇気を与えてくれます。

私は将来、貧しい子どもたちと高度な教育をつなぐ架け橋になりたいです。そのために、もっと勉強して自分にしかできない社会貢献、未来のための教育支援のかたちを見つけます!



## 暗室にある宝物

キンカンダー・スリニャさん (20歳)  
ラオス芸術大学 学生 (ラオス)

私は「てっちゃんねっと」で日本語を勉強しています。高校1年の時に入りました。

そこには「暗室」という部屋があります。電灯は壊れていますが、窓を開けるとかなり明

るくなり、机や椅子、勝手に作ったベッドまであります。教室から離れているので、大きな声で話しても叱られません。いつもこの部屋で勉強したり、遊んだり、寝たり、食べたり、いろいろなことをしました。ある日、先輩が「この暗室には宝物があるって知ってる？」と言いました。探しましたが、何も見つかりませんでした。先輩にだまされたことに気づきました。

私たちにとって、「てっちゃんねっと」は日本語教室というより2つ目の自宅みたいです。「こんな楽しい日々がずっと続けばいいのになー」と思っていたのですが、高校を卒業すると多くの友達が外国へ行ったり、ラオスの別々の大学へ行ってしまうしました。

去年、吉田哲朗先生のお誕生会に、長い間会っていなかった友達が戻ってきました。昔のように「暗室」でいっぱい話をしました。その時、先輩にだまされた話をすると、みんなが大笑いしました。でも、それはだまされたんじゃない。宝物は確かにあったのです。離れ離れになった私たちの心から今も離れない「暗室」での思い出。

これからも、来年も、例え10年先でも。それはきっと本当の宝物に違いありません。 ■



## 夢をつかむ踏み台としての努力

グデ・スティルタさん (22歳)  
デンパサール・マハサラスワティ大学 学生 (インドネシア)

私は小学6年生の時に両親が亡くなって以来、叔父に育てられました。貧しかったので、よく友達にいじめられました。アルバイトをしてやっと新しい靴が買えました。初めて自分の努

力が実って、とても嬉しかったです。それをきっかけにもっと勉強するようになりました。

高校2年生の日本語の授業の時、初めて日本人と話す機会がありました。とても緊張して「こんにちは」とだけしか言えませんでした。でも、その人はにっこりと「日本語が上手ですね」と言ってくれました。日本語を大学で勉強したいと思うようになりました。そして、奨学金をもらって大学で学べることになりました。

一番心に残っているのは「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」。

福澤諭吉も幼い時にお父さんを亡くし苦境を乗り越えてきました。その生き方と教えが「人生は不平等だ」と思っていた私の気持ちを変えてくれました。両親がいないことや貧乏であること、友達のいじめなどを恨むのではなく、それを踏み台として、夢をつかめるよう努力しようと思いました。

私には、日本の会社で日本人の働き方や経営の仕方などを学んだ後、帰国して自分の会社を開きたいという夢があります。自分の夢をつかむために努力して、将来は自分が得た知識や経験を周りの人のために役立てられるようにしたいと思います。 ■



## 私の日本語学習の旅

ウィナー・サアグトゥ・ナビラ・アーサン・ワシリさん (22歳)  
ブルネイ大学 学生 (ブルネイ)

私の趣味は日本語を勉強することです。字幕なしでアニメを見たいからではありません。でも、もしそれができたら、素晴らしいですね。私は本当に日本語が好きなんです。



私が日本に興味をもったきっかけはInstagramでした。そこに日本語で書かれていることが気になった私は、アプリをダウンロードして自分で読み方を勉強するようになりました。学習が大好きなので、2週間で日本語能力試験5級(JLPT N5)レベルの漢字の読み書きができるようになりました。大学の休みの3カ月の間もずっと日本語を勉強。同じ年に JLPT N5 の試験に合格することができました。

私の好きなアニメは『黒執事』です。『黒執事』はミュージカルもあります。主人公を演じる俳優はグループバンドの本物の歌手です。読み方を練習するために、この俳優のツイッターとInstagramをフォローしました。この方法で日本語の勉強が楽になりました。毎日、運転中や勉強中にも日本の歌を聞きました。

大学の校外学習プログラムで、日本への交換留学を目指し勉強しました。でも、選ばれませんでした。本当に死にたかったです。他の国を探して結局、韓国に行くことになりました。3カ月間韓国に住んで韓国語を勉強しました。

いま、私は4つの言語が分かります。苦勞によって人は成長もすればだめにもなる。希望を失ってはいけません。

## 新しい私との出会い

ジラーポーン・ポーピャンさん (20歳)  
ウボンラチャタニー大学 学生 (タイ)

大学の日本語学科で先生から「失敗は成功のもと」と言われました。その時は意味が分かりませんでした。私は日本語をいつも小さい声で話していました。日本に留学したいと思っても、



思っただけでした。なぜなら、日本語を話すのが怖かったからです。

そんな私が昨年、人生で初めてガイドになって日本人に私の故郷を案内したんです。先生から「世界故郷PR大会」に応募する機会をいただいた私は、自分の故郷スリンのPRビデオを作って送りました。すると、それを見た日本人が本当にスリンに遊びに来ることになりました。ガイドをお願いされた時はとても心配でした。でも、何もできない自分を変えたくて、やってみようと思いました。

日本人に勇気を振り絞ってゆっくり日本語でスリンを紹介しました。彼は私の日本語が分かりました。とても嬉しくて楽しかったです。たくさん日本語を間違えましたが、彼が何度も直してくれました。すると「失敗は成功のもと」という言葉の意味がやっと分かりました。自分にも勇気があることに気づき、一番の自信になりました。新しい自分を発見して夢をもちました。

私は将来、日本語の先生になって学生に挑戦する機会を与えることができれば幸せだと思います。皆さんも怖いと思うことでも挑戦してみてください。新しい自分を発見できるかもしれません。

## 日本人はツライよ

ディラン・リム・シン・ジさん (22歳)  
ファーストシティ UC 学生 (マレーシア)

私は2年間 AtoZ という語学学校で、英語とマレー語の教師として働く一方、生徒として日本語の勉強もしています。もともと日本の歌が大好きだった私は、日本語で2つほど恋の歌を作りました。今は日本で働きたくて日本語を勉強しています！



日本にはいい人がいっぱいいると思います。でも、日本人は優しすぎてツライんじゃないかと感じます。飲み会に行きたくなくても断れなくて行ってしまったり、相手に合わせて行動することを一番に考えたり……。他人のことを考えすぎて、がまんしてツライ思いをすることもあるかもしれません。でも、私は日本人のそんな性格が人としてとても大切だと思います。誰かのことを考え、誰かの役に立ちたいと思う気持ちから、新しいものが発明され、便利な世の中がつくられたに違いありません。日本人の心は、未来をつくるための力になると思います。

私は日本人の態度に刺激を受けています。例えば、災害後にとても早く都市を回復させたのには本当に驚かされたし、大変な状況でも他人を思いやる態度が素晴らしいと思いました。

私は日本で働き日本人と共に過ごすことで、インスピレーションを高めたいと考えるようになりました。

マハティール首相は日本が好きです。マハティール首相が言ったように、私もマレーシアが日本の足跡をたどることを望んでいます。■

## 私がダイエットから学んだこと

ゾーイ・アガサ・セラノさん (24歳)  
会社員 (フィリピン)

ちょうど1年前、ダイエットフードの宅配サービスを何週間も続けて、奇跡的に2カ月間で3キロ減らすことができました。今までいろいろなダイエットを試しても全て失敗ばかり



だったので、大きな成果でした。「この調子で目標の体重を達成し、好きな服とスカートを着ることができる！」と思ったらワクワクしました。

でも、ある日気づいたのです。お弁当のプラスチック容器が山のようにになっていたことに。そこで、1人暮らしを始めて「自炊をしてみよう！」と思い立ちました。すると、1カ月で5千ペソ (約1万円) も節約することができました。使い捨てのビニール袋、プラスチックの容器なども使わなくてすむようになりました。

私たちはたとえ問題意識をもっていたとしても、なかなか動くことができません。だったら自分に何ができるかではなく、まずは自分が今困っていることを考えて解決方法を探ってみてはいかがでしょうか。なぜなら、人を動かす「きっかけ」となるのは大勢が抱える問題ではなく、自分自身が困っていることだからです。

私の場合、家の中にプラスチックの入れ物がたまり、スペースがなくなってしまうことが「きっかけ」となり、自分で何かをする覚悟をもちました。あなたは今、何に困っているのでしょうか？ 今日、家に帰ったら、少し考えていただければと思います。■



## チームワークとネットワーク

AGC 株式会社 人事部 林 徹  
(第34回日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業コーディネーター)

東日本を中心に甚大な被害を及ぼした大型台風19号。その影響により、全参加者の帰国前日の行動が制限され、帰国も1～3日遅れました。空港までの鉄道やバスなど交通網が停止し、空港は大勢の人で混乱しました。空港近くの宿手配や帰国便の振り替えなど、日本国内や各国の関係者と連携・協力。なんとか全員無事に帰国できました。この経験を通じて改めて安全は当たり前ではないこと、いざという時の来日メンバー・関係者によるチームワークの大切さを感じています。

私は日外協に出向していた2016年から19年まで計4回、日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業に携わりました。1年目はとにかく夢中。かつて私が駐在したことのあるインドネシアから来日したメンバーにインドネシア語で話しかけたら、いきなり流ちょうな日本語で挨拶されてびっくりしたのを覚えています。

民族・宗教・言語……、ASEANとひと口に言っても多様です。そんな彼らがすぐに打ち解けて友達になる。まさに「ONE TEAM」になり、日本語でコミュニケーションする姿がほほえましくて思わず輪の中に入りました。みんな純粋で素直、こちらが提供するハードなプログラムを、どんなに疲れている時でも笑顔で柔軟に受け入れ吸収してくれました。

国際交流事業の効果は目に見えないし、すぐには出てきません。協会内で事業の継続について議論となり、各国の日本語スピーチ・コンテスト関係者に、まずは電話で直接ヒヤリングすることに。その結果、本事業が日本語学習者の目標となっていること、各国にもいろいろな事

情があることが分かりました。そこで、昨年から現地で行われる日本語スピーチ・コンテスト



日本らしくハッピーで司会(右端が林さん)

にも実際に足を運ぶこととなり、これまで10カ国を訪問しました。日頃から日本語教育の普及に努めている方々や、コンテストの実施に尽力している関係者、ラオスでは私財を投じて日本語教育を行っている日本企業OBにも会うことができました。「優勝して日本に行ける」ということは、日本語学習者たちにとって、とても大きな励みになっています。毎年繰り返されてきたこの交流事業がどの国でもしっかりと根付いていること、多くの方々に支えられて成り立っていることを知りました。また、過去に日外協の招へいで来日したメンバーと現地で再会する同窓会もイベント化することができました。

日本企業への就職が決まって東京へ、インターンシップで日本の地方自治体へ、さらには国際NGOとして途上国へ……。日本語スピーチで語った夢の実現に向けて皆、頑張っています。こうした草の根交流のネットワークが横だけでなく縦にもさらに広がっていくことを願っています。

最初に担当した時の参加国は8カ国、何としてもASEAN10カ国全てを呼びたいと、参加していなかったシンガポールとベトナムの現地関係者への働きかけを続け、昨年ついに念願がかなった10カ国10人が来日。さらに、今年はその10カ国の在日大使館員の方々が日本語スピーチ発表会に駆けつけてくれました。

日外協には日外協にしかできないことがあります。貴重な経験ができたと感謝の思いでいっぱいです。(談)